**個人成果報告**

**C3　チームにんじん戦線**

**城丸　早**

**6月WEBアプリ開発コースを経て成長したこと**

**5月を終えたころに感じた課題**

・チャレンジ精神の欠如

５月の名刺管理アプリ作成時点では実装したい機能があるが技術的にわからない場合でも、講師の方がほかの人の質問対応に追われなかなか順番が回ってこないことを口実に自分の知っている技術内でできる機能のみを実装した。

その結果、ほかの人に比べて簡素なアプリになってしまった。

また５月のクラス全員の発表を聞いて、研修で習っていない技術を取り入れ工夫している人が多く、自分ももっと能動的に技術を学んでいく姿勢を持たなくてはいけないと思った。

５月での反省を踏まえ６月のチーム開発ではわからなかったら調べる・質問することを念頭に置き、アプリの要件定義の時点で挑戦的な機能を実装したアプリ開発を目指し、開発作業ではアプリの中核となる機能を担当した。これによってDao,Bearns,Servlet,jspのファイルのつながりと、javaのオブジェクト指向の理解が深まった。

また新しい技術を取り入れたことで正常に動かない、エラーが出ることが多かったためデバック能力の向上や、どこでどう行き詰っているのかを説明しどうしたらよいか質問する力も身についた。

**・コードが煩雑で見にくい**

５月の名刺管理アプリ作成時は個人での作業だったため、コードのインデントがそろっていなくても多少自分が理解するのに時間がかかってしまうという程度の弊害で済んだが６月はチーム開発であったためこのままの状態ではチーム全体の進捗にかかわると考えたため課題として挙げた。

実際の６月でのチーム開発では、コードを書き加える時点でインデントをそろえることを意識して書き、書いていく中で煩雑になったとしても共有する前にそろえることや、コメントアウトを使用してほかのメンバーが見てすぐに何の処理を書いているか分かるよう行動することができた。

**・プログラミング知識の習得**

5月に作成した名刺管理アプリではすでにひな型のコードができており、講師の方に指導してもらった箇所の変数やコードを変更することで少しアレンジを加えた名刺管理アプリが完成したため、コード内容たDao,Bearns,Servlet,jspなどのファイルのつながりが理解できていなかった。

しかし、６月からのグループ開発ではアプリを一から設計することでファイルのつながりやコードの意味というものが分からなければ開発がすすめられないため、テキストやWeb記事、講師の方の助言を聞きつつ開発を進めた。

結果、javaのオブジェクト指向、Dao,Bearns,Servlet,jspなどの各ファイルの役割、デバックのやり方などプログラミング知識を格段に向上することができた。

**・コミュニケーション能力の向上**

５月時点では質問することも億劫と思ってしまうほどコミュニケーションをとることに消極的であったが、５月末の発表会で他人の発表を聞いてこのままではいけないと思い立ち質問を遠慮なくするよう心掛けた。

その結果、自分が分からないことを質問するためにエラー要因の追究のためデバック能力の向上に加え、以前よりも現状をわかりやすく伝えられるようになった。

またチーム開発に入り、挨拶やお礼といった作業内容に直接かかわりのない部分でのコミュニケーションの大切さについても学ぶことができた。

チームで各個人の進捗を報告した際にありがとうやすごいといった言葉をかけることでメンバー全員が積極的に作業に取り組むようになったことや、挨拶をすることでメンバーが発言しやすくなったと感じた。

学生時代は、自分と似たような人としか関わってこなかったが、今回のチーム開発で自分とは違う感性の人とか関わることで思ってもみなかった意見が聞けたのは面白いと感じることができた。

**研修を終えての今後の展望**

今回の研修でプログラミングの技術面とコミュニケーション面で成長することができた。

どちらも学んでいくこと、知っていくことに対して楽しいと感じることができ、前向きに行動できるようになったのが大きな成果であった。

今後の部署研修では、今回の成果を活かしタイミングを伺いつつも先輩へ質問することをためらわず自ら学んでいく姿勢を持ち続けていく。